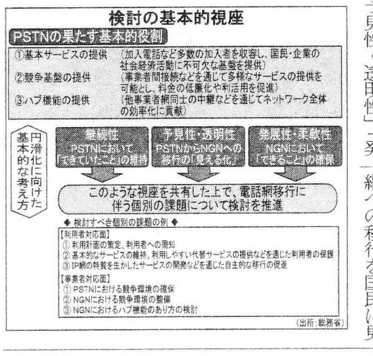
IP化のメリットをいかに

情報通信審議会電気通信事業政策部会電話網移行円滑化委員会（第3回）が24日（水）、総務省内で開催された。電話網からIP網への移行における利用者対応のあり方について議論がなされた。

電話網からIP網への移行を円滑に行うため、大きなポイントになるのが「継続性」「予見性・透明性」「発展性・柔軟性」だ。要するに、電話網で実現していたことを維持しつつ、電話網からIP網への移行を国民に見える形で推進し、IP網ならではの新たな発展やメリットを示すことだ。



検討の基本的視座

PSTNの果たす基本的役割

①基本サービスの提供　（加入電話など多数の加入者を収容し、国民・企業の社会経済活動に不可欠な基盤を提供）
②競争基盤の提供　（事業者間接続などを通じて多様なサービスの提供を可能とし、料金の低廉化や利活用を促進）
③ハブ機能の提供　（他事業者網同士の中継などを通じてネットワーク全体の効率化に貢献）

円滑化に向けた基本的な考え方

継続性　PSTNにおいて「できていたこと」の維持
予見性・透明性　PSTNからNGNへの移行の「見える化」
発展性・柔軟性　NGNにおいて「できること」の確保

このような視座を共有した上で、電話網移行に伴う個別の課題について検討を推進

◆ 検討すべき個別の課題の例 ◆

【利用者対応面】
① 利用計画の策定、利用者への周知
② 基本的なサービスの維持、利用しやすい代替サービスの提供などを通じた利用者の保護
③ IP網の特質を生かしたサービスの開発などを通じた自主的な移行の促進

【事業者対応面】
① PSTNにおける競争環境の確保
② NGNにおける競争環境の整備
③ NGNにおけるハブ機能のあり方の検討

（出所：総務省）

ただ、現状は、IP網の発展性・メリットが国民の関心を引いているとはいえない状況にある。

北俊一委員（野村総合研究所上席コンサルタント）は「IP網移行で最大のメリットを享受するのは事業者そのもので、目立ったユーザメリットが見出せない。ユーザメリットはもちろん、その周

トも重要だ。IP化に伴って新しいサービスが展開され、新しいデバイスが登場し、それによって世の中が潤うという流れをつくり、IP網の応援団を形成しないといけない。そうしなければ、移行は遅々として進まず、苦しいマイグレーションになるのではないか」と述べた。

また、長田三紀委員（東京都地域婦人団体連盟事務局次長）は「一般的な国民にとって電話網の移行は、古い水道管やガス管の取り替えという印象に近い。だから移行に際して、利用者負担があっ

サービスがなくなったりするのに抵抗を覚え

石井夏生利委員（筑波大学大学院　図書館

損をさせないようにすることが大切だ」。

解にあまりこだわらなくてもいいのではない

がいい」との認識を示した。

英調査会社

各国LTE戦略をレポート

異なるバンドの発生で、地域が分断化

英国調査会社のインフォーマT&Mは「LTE周波数帯の戦略と2016年までの予測：55カ国の加入予測、市場化、帯域幅、普及予測」を報告書としてまとめた。

同報告書は、スペクトラム政策と有用性のギャップが、地域ごとの分断化を招いていると指摘。地域や国ごとに異なるバンドが発生しており、機器やデバイスベンダがサポートするバンドを選択する際に、バンドの組み合せが困難さを増長しているとしている。

低いスペクトラムの場合、米国では700メガヘルツのバンドが普及しているが、欧州では800メガヘルツのデジタル配当バンド（デビデンドバンド）が幅広く使用されるだろうと同社は予測している。スウェーデンでは当初から900メガヘルツが使用され、2016年までにNTTドコモやKDDIなどを含む数少ない市場になるとしている。

高周波数については、2600メガヘルツのFDDバンドが欧州で普及しているが、北米やラテンアメリカで多少採用されるくらいで、アジア太平洋市場ではあまり採用さ

の2600メガヘルツのTDDバンドの採用が見込まれるのみとしている。

その他のバンドはほとんど1か国のみで他国では採用されないとし、1900メガヘルツのバンドは米国とアルゼンチン、日本の1500メガヘルツのバンドも国内に限定されると予測している。

ICT生産は遅行

ICRがレポートを公表

情報通信総合研究所（ICR）は、ICT産業が日本経済に与える影響を把握するために、九州大学の篠崎彰彦教授監修のもと作成した「ICT関連経済指標」を用いた分析を「InfoComICT経済報告」として四半期ごとに公表しているが、26日（金）、ICT経済概況についてのレポートをまとめた。来月中旬に同社ウェブサイト上に公開

産全体に比べ
している。6月
業生産の前年同
マイナス1.7
るのに対し、I
産のそれはマ
8.4%と回復
に乖離が見られ
　7―9月期
T経済は、供給
緩和、復興投
要の本格化によ
給面・需要面と
スに転じると予
が、10―12月期
回復基調が継続
は、半導体など
品をはじめとす
T輸出の動向次
ている。世界経
うなるかにかか
り予断を許さな
とめている。

日本のICT 17

動き出す高齢者ICT

iPadが育む新たなシニア文化

高齢化社会が進む一方で、孤族と呼ばれる層が顕在化している。豊かな人生をまっとうするため、ICTを駆使した新たなコミュニケーション文化がシニアの間で芽生えようとしている。（北島圭）

iPad無料体験会の模様。三鷹市内にある東京ガスライフバル武蔵野ショールームにて。

NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹は、″シニアに情報化社会の恩恵を!″をミッションに、iPad無料体験会やシニアのICT資格取得を支援し講師を育成する講座をはじめ、シニアの初心者向けパソコン教室「ゆうゆうサロン」などを定期的に開催している。

とくに現在はシニア向けiPad無料体験会に力を入れている。iPad無料体験会は昨年9月にスタートした。

同法人の山根明氏はその理由をこう説明する。

「ICTが発達しても、このままではシニアは取り残される。若い人たちは直感的に使えるが、われわれは教えてもらわないとわからない。例えば多くのシニアはアイフォーンがバスや地下鉄のチケット代わりになることも知らない。そのことを教える役割をわれわれが担う。その1つとしてiPadを教えている」。

現在シニアSOHO普及サロン・三鷹は、認知症予防の観点からエーザイと共催で「みたかを認知症にやさしいまちにしよう!」のプロジェクトを推進している。

「認知症予防のポイントは会話と笑い。現在は地域コミュニティが崩壊し、シニアの孤族が増えている。iPadを覚えてインターネットやメールを使えるようになれば、人と人とのつながりの輪も広がる。iPadで笑いを創ろうということで取り組んでいる」と山根氏は話す。

ところで現状は、iPadだけでなく、多彩なタブレット端末が登場している。しかし同法人ではiPadのみを対象としている。

「種類がたくさんあって、どれがどれだかシニアにはわからない。またアンドロイド系の端末はウイルス攻撃の対象になりやすい端末もあり心配だ。そういうことでiPadに特化している」（山根氏）。

女性が積極的に参加

iPad無料体験会には毎回10名―20名のシニアが集まる。多いときは60名ほど集まったこともあったそうだ。

私は7月30日（土）、東京ガスライフバル武蔵野ショールームで開催された無料体験会を取材したが、そのときは10名のシニアが参加していた。男女比は3対7。山根氏によると受講者の男女比はだいたい3対7なのだそうだ。

「シニア男性は引きこもりがちだ。彼らは組織人で、会社の看板と名刺で生きてきたが、退職後に生きる地域では、そんなものは通用しない。だから外へ出たがらなくなる」という。

かく言う山根氏もかつては企業戦士として活躍していた。

「65歳で会社を退職してから3カ月間は極楽だった。もう満員電車に乗らなくていいし、ネクタイをしなくてもいい。しかし3カ月後からは地獄だった。行くところがないし、会う人がいない。そしてやることがない。それでパソコンと韓国語を勉強することにした。韓国語はものにならなかったが、パソコンを覚えたおかげで、交流の輪が広がり、こうして起業することもできた。現在76歳だが、いまが青春真っ盛り」と述べる。

シニア講師の育成にも注力

iPad無料体験会の特長は″シニアが教え、シニアが学ぶ″というスタイルにある。

ICTの資格を取得したシニア講師は、シニアにとってどこが躓きやすいポイントなのか、経験上熟知しているので、親身になって教えることができ、効果的だという。また、受講者のテンポに合わせて、ノウハウを伝えることもできる。

無料体験会は1コース90分。インターネットやメール、写真撮影のやり方を実機で学ぶ。受講者にアンケートをすると、インターネットやマップ、写真撮影のニーズが高いそうだ。

「当初は1時間コースだったが、それでは短いということで90分コースにした。しかしそれでも足りないという声が多いので、2時間コースにしようかと考えている」（山根氏）という。

一方、講師になるには、シニア情報生活アドバイザーやシニアITアドバイザ（SITAサイタ）などの講師養成講座を受講し試験に合格する必要がある。

「体験会などに参加して″私も講師になりたい″という方をどんどん増やしていきたい」と山根氏は話す。

iPadで本が読みたい

無料体験会に参加した女性にインタビューした。

iPadを覚えようと思ったきっかけについて彼女はこう語る。

「息子がクリスマスにiPadをプレゼントしてくれたので、少しやってみようと思い立った」。

現在iPadでよく利用するアプリケーションは地図と情報検索だという。それ以外のアプリケーションはほとんど使わない。

「テレビのニュースで事件などが報道されると、それがどこなのか地図で調べる。あとは薬の種類を調べたりする。病院からもらった薬にどんな副作用があるのか、よく調べる」という。「息子に教えてもらって、ゆくゆくは本も読んでみたい」と笑う。

iPadは基本的に自宅で利用し、外出先に持ち出すことはないそうだ。

今回、講師を務めた生田美子氏は「受講者の多くが、写真撮影や映像視聴を喜ばれる。最近は私たちの活動を支援してくれるところも多くなっている」と述べる。

坂戸市で市
利帳を発行

NTT番

埼玉県坂戸
TT番号情報は
地方初の試み
電話帳と市民便
合冊版「『タウ
ジ』＋『坂戸市
利帳』」を共同
る（発行はNT
本）。
　坂戸市の行
や坂戸よさこい
どを盛り込んだ
市市民便利帳」
制作し、来年8
のタウンページ
を行い、坂戸市
庭・事業所へ配
　坂戸市は、さ
市民サービス向
域活性化を図る
狙いとしている
　両者は発行
ケート調査を行
後の発行に反映
くとしている。